

認知症疾患医療センター研修

平成29年7月20日、奈良医大 巖櫃会館にて認知症疾患医療センター研修を開催しました。当院 平井基陽 理事長から、認知症疾患医療センターの役割や関係機関との連携について講義を行い、60名の方にご参加いただきました。

先ず、認知症疾患医療センターの役割は、認知症疾患の鑑別診断・BPSDへの急性期対応・身体合併症への対応であることの説明がありました。また、認知症患者さんとその家族が住み慣れた地域で安心して生活できるための支援の一つとして、H29.3.12道路交通法改正に伴う、認知症の鑑別診断と診断書作成を行なう役割が追加された現状のお話がありました。

次に、認知症の早期発見・早期治療の重要性と、認知症初期集中支援チームについて説明があり、早期発見・早期治療のお話では、テレビやインターネットの普及で認知症を知る機会が増え、同居している家族が初期の段階で受診に来られる傾向にあることが伝えられました。しかし、地域には、治療や介護等の支援が必要にも関わらず、受診やサービス利用に繋がらない現状も多くあるため、認知症初期集中支援チームが情報収集を行い、医療機関と連携し、スムーズに受診に繋がられるよう情報共有の強化を図る取り組みがあると伝えられました。

平井理事長の、認知症の早期発見、早期治療、継続した支援のためには、介護・医療の連携が重要になるというお話や、認知症を心配して、初めて受診される方の内、約7割が高齢夫婦世帯や独居の方であるというお話から、認知症介護に不安を感じているご家族が、受診後、まず医療保険での訪問看護利用を入り口とし、次に、介護保険の入り口であるケアマネジャーとの連携のもと、状況を見ながら、介護サービスの利用へ繋げるなどの取り組みを行なう役割を担っていることを再確認させていただきました。